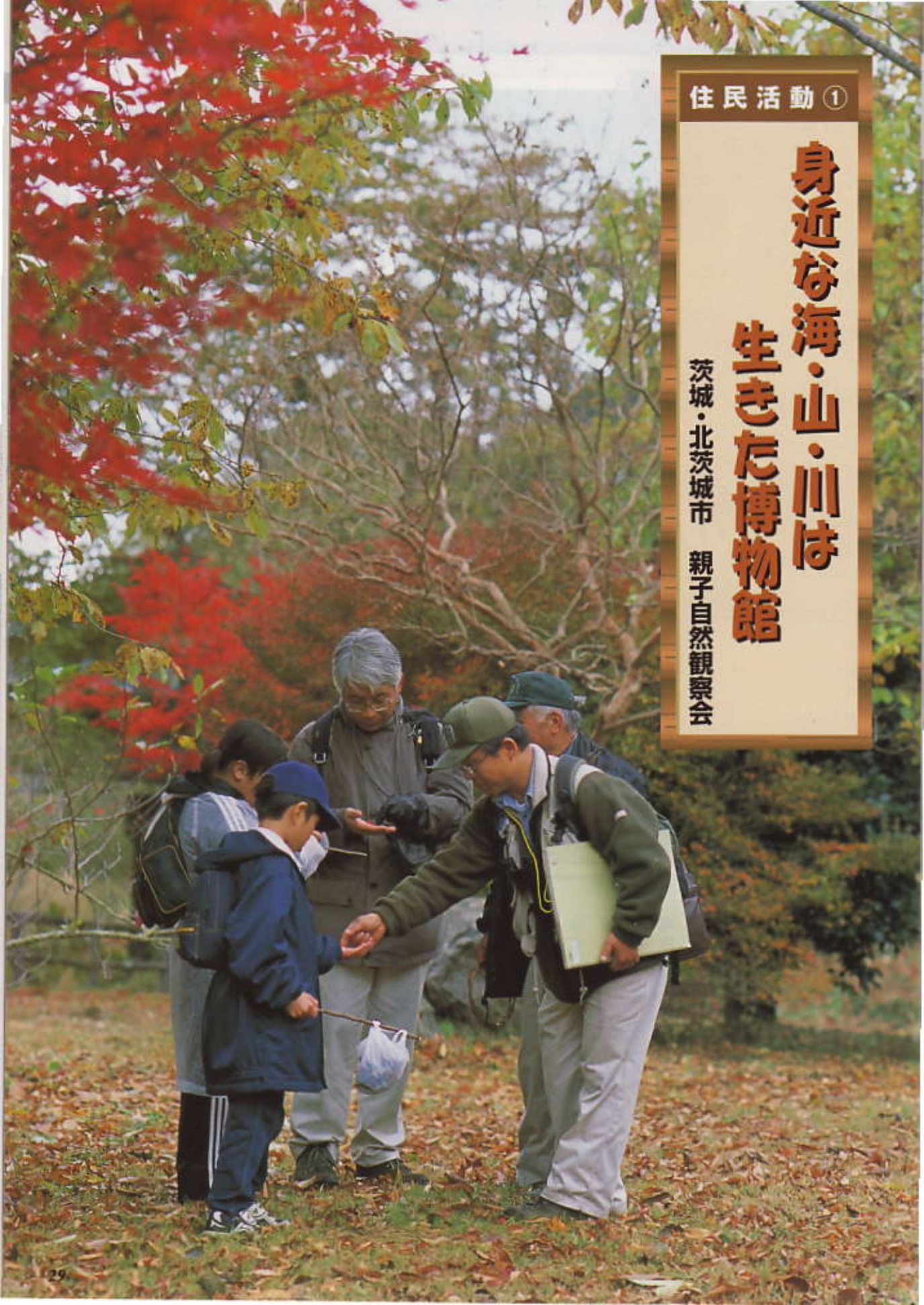


住民活動①

身近な海・山・川は
生きた博物館

茨城・北茨城市 親子自然観察会





一月一二日に茨城県北茨城市の水沼山（四五九メートル）の森を教室にした「エコミュージアム親子自然観察会」が開かれた。

観察会には、あいにくの小雨が降る中、親子五〇人が参加、紅葉に染まる水沼山でハイキングを楽しみながら自然観察指導員から「自然林の仕組み」「なぜ紅葉するのか」「土壌動物」「道端の植物」などについて説明を受け、自然林の生態系の豊かさを学んだ。

「エコミュージアム親子自然観察会」は市の行事として年間六回開催されているもので、「自然わくわく研究会」（代表・澤田清さん）が運営をしている。

「自然わくわく研究会」は、野原で朝食と野点コーヒーを味わいながらの早朝観察会、暗闇を体験するお月見ナイトハイク、海岸で漂着物を拾い河川のごみ問題を考えるビーチコーミングなど、時間も場所もテーマも自由に、身近なフィールドを教室にした体験型自然観察会を開いており、その実績を買われて運営することになった。

水沼山紅葉ハイクは今年最後のブログラムである。五月の「セツ滝シャクナゲハイク」に始まり、六月に「十石堀源流



探索ハイキング」、七月に「北浜海岸早朝ビーチコーミング」、九月に「茜平お月見ナイトウォッチング」、一〇月に「ハマギクロードハイク」を行ってきた。「自然わくわく研究会」の活動は「植物観察会」「バードウォッチング」「蛍観察会」などの自然観察会型、「野草を食べる会」「つるのリース作り」といった自然お楽しみ型、さらには、「野遊び」「森の冒険」「川遊び」などの原体験遊び型といったプログラムが巧みに織り込まれている。みんな「楽しく」をモットーにネイチャーゲームを楽しみながら自然観察する。

この日の水沼山紅葉ハイクのメニューの中にも「カモフラージュ」「目隠しいも虫」「目隠しトレイル」「森のスライドショー」「木の詩」など森と遊ぶネイチャーゲームがハイキングの途中に組み入れられて、親子でゲームを楽しみながら自然観察をした。

「カモフラージュ」は道端に置いてある物を探し当てるゲーム。なかなか保護色で探し当てるのが難しい。ゲームを通して動物のカモフラージュを学ぶ。「目隠しいも虫」と「目隠しトレイル」では視覚以外の感覚を総動員して森を観察す



る。木の太さや手触り、足の感触、鳥の鳴き声に神経を集中させる。「森のスライドショー」は木の葉を明かりに透かして模様や色を楽しむ。「木の詩」は四、五人がグループになって森の中から一本の木を選び、その木を題材に「連詩」を作った。

「エコミュージアム」は、大きな博物館を建てる代わりに、海、山、川の三拍子がそろった北茨城の豊かな自然環境を生きた博物館として活用しようというもの。身近な海、山、川が教室になり、遊び場になる。

自然の中で遊ぶ楽しさを知った子どもたちからは「楽しかった。また参加したい」の声も聞こえる。「遠くにあった山がごく身近に感じられるようになった」とは参加者の感想である。

代表の澤田清さんは「なによりも北茨城の自然の良さに目が向き始めた人が増えてきたことが嬉しい。これからも『楽しい環境教育』をモットーに、一人でも多くの人に参加してもらって、自然豊かな環境に住める喜びを感じてもらいたい」という。

■連絡先 自然わくわく研究会

TEL 0293-421-1818